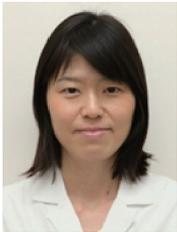




## 新専門医 に聞く

今回新しくリハ科専門医になられた先生に抱負を語っていただきました。専門領域がそれぞれ異なりますが、リハ医学にかける情熱は大きく、これからの地方会を引っ張る新進気鋭の方々です。近畿地方会へのご支援を期待しております。（掲載順不同）

### 井元 恵津子 第2東和会病院



この度リハビリテーション専門医の認定をいただきました井元恵津子と申します。私は平成15年に大阪医科大学を卒業後、即同大学リハビリテーション医学講座に入局し2年間の初期臨床研修で各科を回った後、リハビリテーション科のレジデントとしてさらに2年間研修させていただきました。その後結婚・出産等で約5年間の休業の後再び復帰させていただきました。一度はあきらめた専門医試験の受験・合格に漕ぎつけることができましたのは周りの諸先生方のあたたかいご理解とご指導のおかげの賜物でありますこと、心から感謝致します。自身の未熟さを痛感する日々であります、自分なりに努力を重ねていきたいと思います。今後とも変わらぬご指導とご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

### 梶本 佐知子 愛仁会 尼崎だいもつ病院



このたびリハビリテーション科専門医の認定をいただきました梶本佐知子と申します。もともとは大阪医科大学脳神経外科学教室に入局し、脳神経外科医として大阪医科大学附属病院、その他の関連病院で勤務をしていました。しかし学位を取得後、3人の子育てをしている最中に、脳神経外科医として一生を過ごすことに疑問を抱き始めていました。その時、リハビリテーション医療に関わる機会をいただき、リハビリテーション科に転科しました。これまで様々な先生方にご指導をいただき大変感謝しています。

現在は、愛仁会尼崎だいもつ病院に今年4月から勤務しています。5月に開院した病院であり、私同様まだまだ未熟な病院ですが、回復期リハビリテーション病棟の立ち上げにも関わることができ、充実した毎日を送っています。

微力ではございますが、リハビリテーション医療に貢献できるよう努めていきたいと思っていますので、今後ともご指導・ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

### 新井 祐志 京都府立医科大学大学院 医学研究科 スポーツ・障がい者スポーツ医学教室



この度、日本リハビリテーション医学会専門医を取得させていただきました京都府立医科大学大学院医学研究科 スポーツ・障がい者スポーツ医学教室の新井祐志と申します。小生は平成5年に京都府立医科大学を卒業後、整形外科教室に入局し、小児から高齢者まで幅広い年齢層の方の運動器障害に対して、保存療法から手術療法まで取り組んでまいりました。整形外科医として経験を積む中で、運動器の障害によって生じた機能障害を可能な限り回復させ、残された能力を最大限高めるために、リハビリテーションが重要な役割をはたすことを理解してきました。また、リハビリテーションでは特に多くの職種がかかわって治療するチーム医療としての考え方に興味を持ち、平成22年に日本リハビリテーション医学会認定臨床医を取得しました。また、平成28年には日本障がい者スポーツ専門医も取得し、リハビリテーションを通じて障がい者のADLおよびQOL向上にも携わっていきたくと考えております。今後、リハ医療と医学の発展に貢献できるように頑張る所存ですので、よろしくお願い申し上げます。

### 白銀 隆宏 生駒市立病院 リハビリテーション科



この度、リハビリテーション科専門医の末席に加えて頂きました。4月からは新たな職場でリハ医として働き始め、リハスタッフ(PT、OT、ST)の皆さんとコミュニケーションを取りながら一人リハ医ですが、楽しく仕事をさせてもらっております。リハ専門医試験に挑戦するまでの約4年間は、前職場のリハビリテーション科の上司の先生はじめ、多くのリハ専門医の先輩方からリハビリテーションのこと、試験勉強のことなど色々ご指導を頂きました。この場をお借りして感謝申し上げます。これまでの経験や試験勉強で得た知識を今後のリハ医としての診療に生かしていけるよう、また新しいことを学ぶ心を常に持ちながら頑張っていきたいと思っています。どうぞこれからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 小倉 加恵子 森之宮病院 小児神経科



このたびリハビリテーション科専門医の認定をいただきました小倉加恵子と申します。専門医取得にあたっては、現職場のみならず前職場を含めた多くの先生方のご指導をいただき広い領域を勉強することができました。心より感謝申し上げます。私は、これまで臨床面では、主に小児神経疾患の診療に携わってきました。現在の職場は主に運動麻痺のある子どもさんを対象としており、リハスタッフの皆さんと意見を交わしながら研鑽を積んでおります。今後も仕事を通じて、子どもたちの健やかな成長のために微力を尽くしてまいります。どうぞご指導・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

## 小田 良 京都府立医科大学 整形外科



この度、リハビリテーション科専門医の認定をいただきました、小田 良と申します。平成9年に京都府立医科大学整形外科学教室に入局し、整形外科医として研修を行った後、大学院で末梢神経の基礎研究を行いました。その後は関連病院で手外科と関節リウマチを中心に診療に従事し、平成20年から大学で研究・教育・診療に従事しております。手外科、関節リウマチとも、治療においてリハビリテーションの果たす役割が重要な分野です。特に関節リウマチのリハビリテーションは、生物学的製剤によるパラダイムシフトとともに、大きな変革の時期を迎えていると言えます。この時代の流れを逃さず、リウマチのリハビリにもパラダイムシフトを引き起こせるよう、研鑽を積んでいきたいと考えております。さらに今後はリハビリテーション科専門医として、近畿地区のリハビリテーションの発展に微力を尽くして参りますので、引き続きご指導よろしくお願いたします。

## 夏梅 隆至 大阪労災病院 リハビリテーション科



この度、リハビリテーション医学会専門医の認定を頂きました夏梅隆至(なつうめたかし)と申します。大学院卒業後に行った力学刺激が運動器の細胞の代謝に及ぼす影響の研究を通じて、力学刺激を主たる治療手段とするリハビリテーションに興味を持つようになりました。平成26年より大阪労災病院に赴任し、専門医試験の要件となる症例報告を完成させることができ、受験することができました。実際に試験の準備を始めると、リハビリテーションは、医学の幅広い分野をカバーしており、それらを理解することは、大変でしたが、自分の視野も広がったように思います。今回、専門医を認定頂いたとはいえ、未だ、知識、経験ともに不足していると感じる毎日です。今後更なる研鑽を積んで参る所存ですので、今後とも御指導、御鞭撻の程宜しくお願申し上げます。

## 原 仁美 神戸大学大学院 整形外科



この度、リハビリテーション専門医の認定を頂きました、神戸大学大学院整形外科の原仁美と申します。平成12年に神戸大学整形外科に入局し、整形外科医としてレジデント研修を終え、大学院では骨軟部腫瘍の研究を行い、その後は骨軟部腫瘍を専門として大学病院で勤務しています。骨軟部腫瘍を専門に診療していると、運動器リハビリテーションはもちろん、がんリハビリテーションに興味を持つようになり、その重要性を実感しリハビリテーション専門医を目指すきっかけとなりました。リハビリテーションは広い分野の知識と経験が必要だと感じており、これからも日々精進してまいりたいと思います。まだまだ未熟ではありますが、リハビリテーション医学会に貢献できるように頑張りますので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願申し上げます。

## 吉田 清志 大阪大学 整形外科



この度リハビリテーション科専門医を取得させていただきました大阪大学の吉田清志と申します。平成15年に大阪大学卒業後に整形外科に入局しました。様々な病院で高齢者の骨折、変性疾患の手術やリハビリテーション、さらに専門分野として小児整形外科を研修してまいりました。現在は大学病院で小児整形外科を専門として先天異常や小児疾患の手術治療および関連病院で脳性麻痺を中心とした障害児のリハビリテーションを行っております。リハビリテーションの重要性を日々の診療で感じ専門医試験を受験しました。まだまだ経験の浅い若輩者ですが、今後は専門医としてリハビリテーションの発展に尽力していく所存ですので、今後とも御指導御鞭撻のほど宜しくお願申し上げます。

**白石 裕一 京都府立医科大学 リハビリテーション部・循環器内科**

今年新たに専門医に加えていただきました京都府立医科大学リハビリテーション部・循環器内科の白石裕一です。もともと専門は循環器内科で現在も不整脈関連の仕事もさせていただいております。平成17年からリハビリテーション部の一員に加えていただき久保教授のご指導の下心臓リハビリを中心に経験を積ませていただきました。植え込みデバイス術後のリハビリテーションや、重症虚血下肢、重症心不全のチーム医療などについてデータを蓄積し発表を行って参りました。現在は心不全患者の骨格筋、栄養、認知機能などに主眼をおいて臨床研究を行っております。高齢化の現代において心臓疾患は非常に頻度が高く、内部障害リハビリの一つとして心臓リハビリが広く普及し、かつ質の高いリハビリが行われるよう微力ながら活動していきたいと思っています。

**美船 泰 神戸大学 整形外科**

私は神戸大学医学部を平成13年に卒業し、整形外科に入局させていただき、これまで運動器疾患の診療ならびに研究に従事して参りました。現在は、上肢の関節外科を専門としております。日々の診療の中で、リハビリテーションの重要性を痛感することが多く、リハビリテーション科専門医を目指すことを決意し、皆様のお蔭をもって無事に認定を頂戴しました。専門医試験の勉強を経て、自分の知見を広げ、深めることができたとともに、今後のリハビリテーション医療の重要性の高まりを実感しました。来る超高齢化社会に対して、リハビリテーション科専門医である自分ができることは何なのか、一人でも多くの患者様に嬉しい気持ちや生き甲斐を持って過ごしていただくために、自分にできることは何なのか。日々、自分自身に問いかけながら、少しでもリハビリテーションの発展に貢献できるよう精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

**南 瑠那 丹後中央病院 リハビリテーション科・整形外科**

H20年に京都大学を卒業し、このたびリハビリの専門医を取得させていただきました。海外で現在の仕事となんの関係もない基礎研究に携わっていた時期もあり、臨床研修は遅れておりますが、何でもさせていただける病院、若手医師に優しい丹後中央病院のおかげでリハビリテーション科と整形外科の両方に席を置かせていただいております。

田舎にある病院ですが、回復期リハビリ病棟は96床もあり、地域住民の超高齢化が進む中、平均年齢を押し下げる活気あるスタッフ67名で成り立っています。療法士さん達から学ぶことだけでなく、リハビリ専門医といっても逆に教えてもらうことばかりです。これからは臨床および学会活動に精力的に取り組んでいくつもりです。よろしく申し上げます。

**大橋 鈴世 京都府立医科大学大学院 リハビリテーション医学**

この度、リハビリテーション科専門医に認定いただきました京都府立医科大学リハビリテーション医学教室の大橋です。私は平成8年に広島大学を卒業後、京都府立医科大学整形外科に入局し、整形外科医として勤務させていただいております。学生の頃からリハビリテーション医学には大変興味がありました。その関係もあり、当リハビリテーション教室責任教授である久保俊一先生からお声を掛けていただき、平成27年3月からリハビリテーション医学教室に異動し勤務させていただいております。新しい立場から改めてみると、リハビリテーション医学・医療は非常に奥が深い分野であることが実感され、今更ながら驚いています。今後は専門医として少しでも貢献できるよう頑張りたいと思います。今後ともご指導のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

